

埼玉医科大学総合医療センター関連発表

- | | | | | | |
|-----|---------------|---|-------------|-------------------------------|---|
| 148 | 第1日 5月18日 (木) | 第19会場ANA クラウンプラザホテル 糖尿病療養指導 (薬物療法1) | 9:30~10:30 | 座長岐阜大学糖尿病代謝内科武田純一~19~10 | 糖尿病治療における内服薬週1回毎の潜在埼玉医科大学総合医療センター看護部山岸千春, 他 |
| 202 | 第1日 5月18日 (木) | ボスター会場1名古屋国際会議場地動脈硬化症4 | 17:30~18:00 | 座長国立病院機構九州医療センターI-P-361 | 2型糖尿病患者におけるSGLT-2阻害薬投・埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科大竹啓之, 他 |
| 220 | 第2日 5月19日 (金) | ボスター会場1名古屋国際会議場地薬物療法 (GLP-1受容体作動薬)18:10~18:40 | | 座長埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科松田昌文 | |
| 223 | 第2日 5月19日 (金) | ボスター会場1名古屋国際会議場地薬物療法 (DPP-4阻害薬8) | 17:40~18:10 | 座長医療法人と香会倉敷スイートホテルII-P-66 | テネリグリプチン内服中に水泡性類天疱瘡埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科の場玲恵, 他 |
| 233 | 第2日 5月19日 (金) | ボスター会場1名古屋国際会議場地糖尿病療養指導 (チーム医療8) | 17:40~18:10 | 座長大阪市立大学大学院看護学研究II-P-242 | 第22回埼玉糖尿病セミナー『身近な情報』埼玉医科大学総合医療センター薬剤部齋藤健一, 他 |
| 239 | 第2日 5月19日 (金) | ボスター会場1名古屋国際会議場地地域医療・医療情報9 | 17:40~18:10 | 座長鳥取大学医学部・地域医療学講義II-P-350 | 「川越市における糖尿病に関わる医歯科(一社)川越市歯科医師会望月司, 他 |
| 240 | 第2日 5月19日 (金) | ボスター会場1名古屋国際会議場地腎症7 | 18:10~18:35 | 座長谷津保健病院・糖尿病内科久保II-P-368 | 中等~重度腎機能障害合併2型糖尿病への埼玉医科大学総合医療センター腎・高血圧内科叶澤孝一, 他 |
| 271 | 第3日 5月20日 (土) | ボスター会場1名古屋国際会議場地高齢者糖尿病2 | 16:50~17:20 | 座長一般財団法人甲南会甲南病院内III-P-280 | 特定健診受診者におけるフレイルの実態調査山中央病院内分泌糖尿病内科/埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科松田彰, 他 |
| 284 | 第3日 5月20日 (土) | ボスター会場2名古屋国際会議場3筋・脂肪・肝のインスリン1 | 16:50~17:20 | 座長大阪大学内分泌・代謝内科福島III-P-488 | 実験動物を用いた異なる量のドウブ糖負荷埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科松田昌文, 他 |
| 287 | 第3日 5月20日 (土) | ボスター会場3名古屋国際会議場2ラ氏島の生物学3 | 16:20~16:50 | 座長大阪医科大学内科学I金綱規夫III-P-550 | 新規グルカゴン測定法と従来測定法の臨床埼玉医科大学総合医療センター内分泌・糖尿病内科森田智子, 他 |

I-19-10 糖尿病治療における内服薬週1回錠の潜在的需要の検討

- 松谷 仁恵・穂谷 真雪・森谷美佳子・進藤 啓子・橋本いづみ・松谷 有紀・
山田 元昌
島田 真理子・木下浩介・森谷センター・看護部
局施設衛生施設に週1回薬剤を使用できるように背景の背景となる要因が薬剤に
どのように影響しているかを調査した。
方法
半年、性別、年齢、年齢層、HbA1c、BMI、腰帯率、服薬回数、管理状況、
既往歴の有無と週1回薬剤の希望と現状をアンケートでSPSS ver.24 (IBM) で相関分析
して分析した。
結果
73例中、週1回薬剤に変更したい32%、思わない44%、週1回薬剤に肯定か否定か
は、HbA1c、腰帯率、服薬回数、服薬回数、年齢層、年齢層の各1つの有無と有無は
(p > 0.05) 年齢層別では有意差がなかった (p > 0.05)。15歳までの受け入れは現状
以上ではない傾向、20歳の年齢層では薬の量を減らしたい(35%)、否定的な理由
は思わない(32%)などであった。
考察
週1回薬剤への変更は中高年で定めており、働ききりで不拘性になりがちな年齢層
の需要が高かった。(HbA1c: NSGP)
参考文献

II-P-368 中等～重度腎機能障害合併2型糖尿病へのシタグリフ の腎機能・腎保護・糖代謝への影響に関する切り替え (REAL)

- 叶藻・藻類・片山 浩司・野口 一男・鶴見 一桂・河野 里佳・
仲村 雅子・山本 浩次・佐藤 健次・安田 邦彦・長谷川 伸
埼玉医科大学・医学部・保健センター・高野田正樹・埼玉医科大学・医学部・リナリー
大学医学部分院・精神科病院・武藏丘病院・入間精神クリニック・赤城クリニック

【1】の6ヶ月～重複性慢性胃炎(RU)を有する胃癌細胞(TD20)を
(胃粘膜(EGD)・sugatipin (SIT)による)能動的保育・保護、かつ効率的なシ
ンタルロジカル治療の可能性を探る。【方針】胃壁能動的に用いたSITによる
う他の胃癌(Fu/valglaftan・sugatipin・linapaglin)よりも効率的。投与後3時
間の効率性は、耐酸性・胃酸・胃蛋白酶・マウスの胃を検討した。【結果】
の9時において、SITの効率はよりYHBAE・食事・酸食・歯膏・peptide・胃
酸・胃蛋白酶・胃粘膜・胃粘膜細胞の保護能を示す。SITの効率は、胃粘膜細
胞の保護能は25時間で、YHBAEは10時間で、11時間より効率が高
いため。【結論】SITの効率は25時間で、YHBAEは10時間で、11時間より効率が
高い。胃粘膜細胞の保護能を維持し、費用対効果の点から有益であると
された。[Haga: NSG呈報]

I-P-361 2型糖尿病患者におけるSGLT-2阻害薬投与前後の臨床理指標と医用電子血圧計Pasesa®による血管指標(Augustine et al., 2015)

II-P-66 テネリグリブチン内服中に水泡性類天疱瘡発症し死亡した2型糖尿病の1症例

- の場 琴也・草谷 喜代・山崎修理子・阿部 義美・大竹 啓之・
草谷 哲子・秋山 順郎・松井 昌文

埼玉医科大学医学センターニー内視鏡・消化器内科

症例は高齢男性、胆石異常なし。胆囊癌。狹心症の既往がある82歳の男性。2型糖尿病でアズミグリパインの内服を他院で2012年頃から開始され2015年3月に水泡性胆管癌を発症し胆石摘除を受けた。2016年9月に同様の内服を中止しフレビドニブ+30mgの内服を開始した。7月11日に歩行困難で来を受診しHbA1c:9.1%、血糖値42mg/dLと高血糖で当院に紹介入院となった。インスリリン強化法を開始したが、糖尿病を発症しセフリキアインコトリウム1mgの投与を開始した。液体培养基でCandida albicansの陽性でありヨウカゾール200mgを日量追加したが、徐々に体温は増加傾向となり死亡した。後日剖検培養検査でPneumocystis、dicrocystisが検出された。テネリグリブチン内服中水泡性胆管癌を発症し死亡した2型糖尿病の1症例を経験したので報告する。[HbA1c: NGSP]

II-P-242 第22回埼玉糖尿病セミナー「身近な情報から糖尿病患者さんを正しく優しく導こう」開催報告

→-350 「川越市における糖尿病に関する医科歯科連携の試みについて」～糖尿病連携手帳の記載項目での間違調査から～